



エコアクション21 環境経営レポート

認証番号 0009809

運用期間

2023年1月1日～2023年12月31日



第 14 版

2024年1月11日作成

有限会社クリンケア産業

環境経営方針	1
当社の概要・認証登録範囲	2
環境経営取組体制図 責任と権限	3
許可の内容	4
施設等の状況	5
収集運搬実績	6
環境経営目標	7
環境経営計画の実施状況の評価	8
環境経営目標の実績	9
環境活動の評価と今後の活動	10
環境関連法規への違反、訴訟等の有無	11
代表者による全体評価と見直し・指	12
改善活動の紹介	13

環境経営方針

〔基本理念〕

有限会社 クリンケア産業は、廃棄物収集運搬・営繕清掃業の事業活動と地球環境に与える負荷のバランスを認識し、より良い地球環境及び地域環境向上を目指すため、環境経営方針を定め、以下の事項について積極的に環境活動を推進する。

〔基本方針〕

1. 事業活動に関する環境法規類及びその他の要求事項を遵守します。
2. 環境目標を定め、定期的に見直し、環境経営の継続的改善に努めます。
3. 環境負荷を低減する為に、また地球環境を保全する為に次の活動を推進します。
 - (1) 省エネルギー活動として、燃料・電気使用量の削減に努めます。
 - (2) 省資源活動として、燃料、水の使用量の削減に努めます。
 - (3) 廃棄物の削減とリサイクルに努めます。
 - (4) 事業活動のサービスの環境配慮を通して地球環境の保全に貢献します。
 - (5) 化学物質を適切に管理します。
 - (6) グリーン購入に努めます。
4. 環境経営方針は、全従業員に周知し公開します。

有限会社 クリンケア産業
代表取締役 松見真一



制定 2012年 11月 1日
改定 2024年 1月 14日 (5版)

1. 事業所の概要

(1) 事業所名

有限会社 クリンケア産業

代表取締役 松見真一



(2) 所在地

本社 〒862-0967 熊本県熊本市南区流通団地2丁目10番

車輛置場・有価物集荷場

熊本県熊本市南区近見4丁目618.619-1・620-1・616-1・615・621-

(3) 事業内容

一般廃棄物・産業廃棄物収集運搬業、有価物売買、営繕清掃業

(4) 事業の規模

法人設立 平成12年12月1日

資本金 300万円

項目	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
売上高	百万円	226	234	329	
社員数	人	14	14	14	30

(2) 会計年度

期首：1月 期末：12月

2. 認証登録範囲

登録組織名：有限会社クリンケア産業

認証番号：0009809

登録日：2013年12月27日

事業内容：一般廃棄物・産業廃棄物収集運搬業、有価物売買、営繕清掃業

3. 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

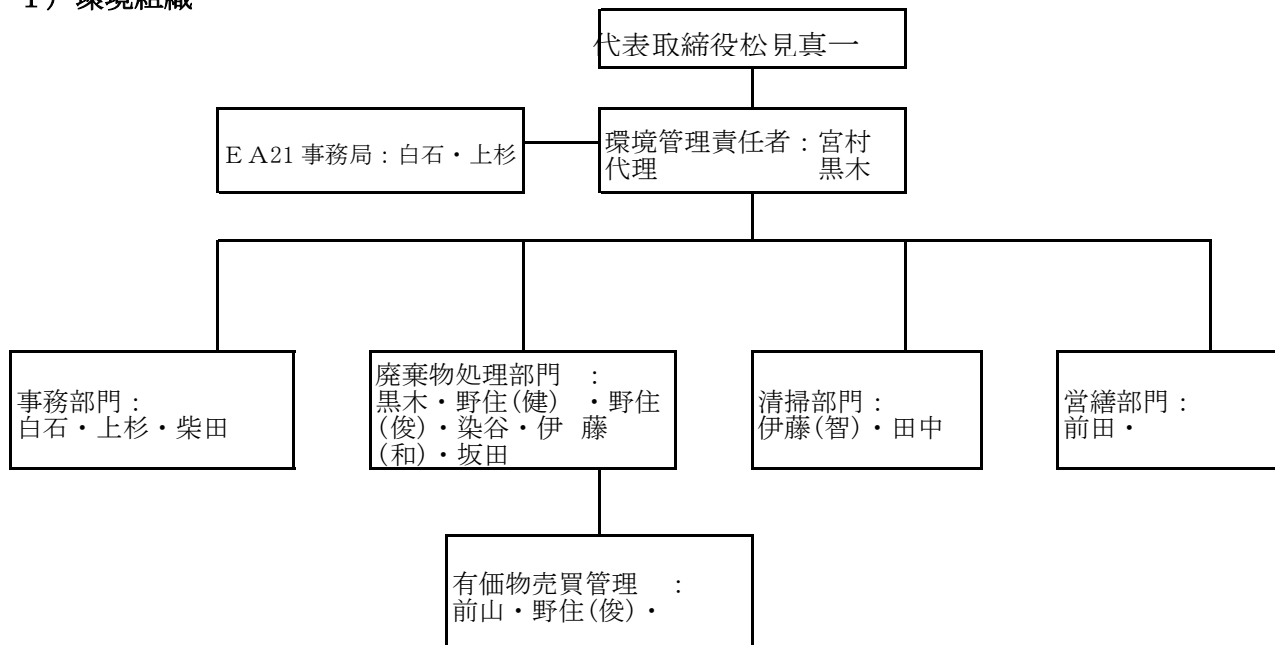
環境管理責任者：黒木

連絡担当者：黒木

TEL：096-379-7011 FAX：096-379-7022

4. 実施体制

1) 環境組織



2) 責任と権限

代表者	社長	①環境経営の最高責任者 ②環境経営方針の制定、環境経営目標及び環境経営活動の承認 ③環境経営システムの評価、全般的な見直し・指示 ④環境経営計画の承認 ⑤環境管理責任者の任命 ⑥緊急事態発生時の判断 ⑦代表者の責任と権限事項について、環境への取り組みを適切に実行するために「資源」を用意する ※資源とは、いわゆる「人・もの・金」のことで、環境への取り組みを実施するための必要な人員、設備、費用等を適切に準備することです
環境管理責任者	黒木	①環境経営システム全体の構築・運営の責任者 ②環境経営システム実績等の代表者への報告 ③環境経営目標、環境経営活動及び環境経営計画書の確認、指示 ④環境経営目標、環境経営計画の進捗確認と修正の指示・実施 ⑤環境経営システムに関する問題の明確化と記録の総括 ⑥環境情報の外部への連絡 ⑦環境経営レポートの作成 ⑧教育と訓練の総括
事務局	白石・上杉	①環境管理責任者の代行及び環境活動の全社的な推進 ②環境データの取りまとめ（集計） ③環境文書発行・管理の実務 ④その他、EA21 事務全般
社員		①環境経営方針、目標の理解 ②環境経営活動の理解と実施 ③環境法規制の遵守 ④緊急事態の予防策、対応策の実施 ⑤内部コミュニケーションの実施 ⑥改善の為の提案

5. 許可の内容

① 一般廃棄物収集運搬業 熊本市許可

許可番号 第 21R-24 号 積替保管行為を除く

許可の期限 令和 3 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日

許可業種及び許可品目（事業の範囲） 事業ゴミと臨時の家庭ごみ

② 産業廃棄物収集運搬業（許可年月日：令和 3 年 8 月 21 日）

産業廃棄物収集運搬	許可を受けている産業廃棄物の事業範囲（種類）													
熊本県許可番号 第 04301078608 号 許可期限 令和 8 年 8 月 20 日	燃え殻	廃プラ	紙くず	木くず	繊維くず	ゴムくず	金属くず	ガラスくず	及コ びン 陶ク 磁リ 器 く ト ず く ず	がれき類	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ
積載保管 【無】	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
水銀使用製品	蛍光管等の取り扱い含む													

③ 特別管理産業廃棄物収集運搬業（許可年月日：平成 30 年 6 月 14 日）

特別管理産業廃棄物収集運搬	許可を受けている特別管理産業廃棄物の事業範囲							
	1	2	3	4	5	6	7	8
熊本県許可番号 第 04351078608 号 許可期限 令和 5 年 6 月 9 日	廃油	廃酸	廃アルカリ	汚泥	ばいじん	燃え殻	廃石綿等	感染性産廃
積載保管 【無】	○	○	○	○	○	○	○	○

- 1、廃油 （揮発油類、灯油類及び軽油類、特定有害産業廃棄物に限る。）
- 2、廃酸 （水素イオン濃度指数 2， 0 以下のもの、有害なもの）
- 3、廃アルカリ （水素イオン濃度指数 12, 5 以上のもの）
- 4、汚泥 （カドミウム又はその化合物又はその化合物を含む有害なもの）
- 5、ばいじん （カドミウム又はその化合物を含む有害なもの）
- 6、燃え殻 （六価クローム、砒素又はその化合物を含む有害なもの）

※積替・保管はなし

6. 施設等の状況

車両の種類 合計 33台

ダンプ	3台	塵芥車	14台	箱型（普通乗用車）	2台
キャブオーバ	5台	脱着装置付コンテナ専用車	5台		
清掃車（ダンパー車）	1台	バン	4台		



7. 産業廃棄物収集運搬実績（2023年1月～2023年12月）

(2020/1月～12月) (2021/1月～12月) (2022/1月～12月)

種類	合計重量(kg)	合計重量(kg)	合計重量(kg)
ガラスコンクリート・陶磁器くず	83,263	54,130	97,700
がれき類	22,060	59,450	79,750
木くず	48,910	28,710	20,484
金属くず	25,974	10,100	110
石膏ボード	31,020	12,970	10,620
廃プラスチック	61,486	42,700	17,875
廃タイヤ	0	0	0
混合廃棄物	121,148	118,510	268,800
汚泥	10,739	18,840	887
廃塗料	0	0	0
繊維くず	0	300	120
蛍光管	2,962	1,860	887
感染性廃棄物（特管）	563	420	170
合計重量	408,125	347,990	497,403
一般廃棄物（受託分）	2,078,850	1,743,000	1,781,270

8. 環境負荷の基準年実績と環境経営目標

番号	項目	基準年実績 2020 年度	環境経営目標		
			2021 年度	2022 年度	2023 年度
1	二酸化炭素排出量の削減	203169 kg-CO2	1%削減 201137 kg-CO2	2%削減 199106 kg-CO2	3%削減 197074 kg-CO2
1-1	電気使用量の削減	15545 kWh	1%削減 15390 kWh	2%削減 15234 kWh	3%削減 15079 kWh
1-2	ガソリン使用量の削減	7255 L	1%削減 7182 L	2%削減 7110 L	3%削減 7037 L
1-3	軽油使用量の削減	68080 L	1%削減 67399 L	2%削減 66718 L	3%削減 66038 L
2	有価物のリサイクル化推進	分別リサイクル化の推進			
3	自社の一般廃棄物排出量の削減	目標には設定せず、日常で管理			
4	水使用量の削減	278 L	1%削減 275 L	2%削減 272 L	3%削減 270 L
5	サービスに関する環境配慮	顧客への分別啓発 7 件/月	顧客への分別啓発 7 件/月	顧客への分別啓発 7 件/月	顧客への分別啓発 7 件/月
6	グリーン製品の購入	グリーン製品安価なものを選んで購入			
7	化学物質の管理	法規制の遵守適切な管理			
8	安全管理	車両置き場、有価物集荷場での事故防止、車両の誘導、車両点検			
9	地域の清掃クリーン作戦	清掃 2 回/年	清掃 2 回/年	清掃 2 回/年	清掃 2 回/年

※電気の CO2 排出係数は、2018 年度九州電力調整後排出係数 0.347kg-CO2/kWh を使用した。

※一般廃棄物は排出量も少ない為に目標には設定せず、日常で管理していきます。

9. 環境経営計画の実施状況の評価

※評価基準：○：できた △：改善の余地あり ×：実施できなかった -：対象外

項目	推進責任者	具体的な活動	事務所	廃棄物収集運搬部門 営繕・清掃部門
二酸化炭素排出量の削減 電気使用量の削減	事務所：白石 現場：宮村・黒木・野住(健)・野住(俊)	駐車場休憩室使用時以外消灯（毎日）	—	○
		使用時以外のトイレ、会議室の消灯（毎日）	○	○
		冷暖房設定温度の厳守（毎日）冷房 26 度・暖房 24 度	○	△
		OA 機器の退社時の電源オフ（毎日）（駐車場計量機）	○	○
		空調機フィルターの定期的清掃（毎月）	○	○
		省エネステッカーによる目で見える周知（毎日）	○	○
		日よけ、ブラインドによる室温上昇防止（6 月～10 月）	○	○
二酸化炭素排出量の削減 燃料使用量の削減	現場：黒木・坂田	アイドリングストップの推進（毎日）	○	○
		経済運転の推進（急発進、急停止の禁止）（毎日）	○	○
		法定速度の遵守（毎日）（スピード違反自己申告チェック）	○	○
		車両の相乗りの推進（毎日）駐車場から事務所へ	—	○
		車両点検の実施（適正空気圧、異常が無いこと）（毎日）点検記録	—	○
		省資源化ステッカーによる目で見える周知（毎日）	—	○
		駐車場整備（特に釘・ビス拾い・飛散物拾い）（毎日）	—	○
有価物	現場：前山・野住(俊)	有価物の分別（適時）	—	○
		リサイクル、再資源化の推進（毎日）	—	○
		有価物置場の適正な管理（毎日）	—	○
自社の一般廃棄物排出量の削減	事務所：上杉 現場：福島	ゴミの分別、リサイクル・再資源化、エコバックの活用（毎日）	○	○
水の使用	事務所：白石 現場：染谷	水使用量の把握	○	○
		生活水の節水の推進（毎日）	○	—
		洗車時の工夫による節水の推進（毎日）	—	○
		水系への環境負荷物質の漏洩防止 G・T清掃週 1 回 油倉庫月 1 回	—	○
サービスの環境配慮	全社：黒木	地域とのコミュニケーション確保（苦情、要望の適正処置）（適時）記録	△	△
		ユーザーへのリサイクル分別の提言（適時）	—	○
グリーン購入	事務所：白石	グリーン購入の推進（毎日）	○	○
化学物質管理	現場：伊藤智弘	在庫チェックの実施（随時）	—	△
		MSDS の取り寄せと内容の理解（12 月）	—	△
		環境法規の実施（適時）	—	○
安全管理	現場：黒木・前山	車両置き場・有価物集荷場での車両の誘導、重機使用（随時）		○
地域貢献（地域清掃）	全社：黒木・宮村・野住(健)	地域清掃の実施（適時）		○

10. 環境経営目標の実績

有用期間:2023年1月1日～2023年12月

項目	環境目標値	運用期間実績	達成度
二酸化炭素排出量	227460 kg-CO2	163443 kg-CO2	139%
電気使用量	12361 kWh	13062 kWh	95%
ガソリン使用量	12453 L	10801 L	115%
軽油使用量	75302 L	51881 L	145%
有価物・リサイクル	分別活動の実施	分別活動の実施	100%
水使用量	336 L	259 L	130%
サービスの環境配慮	顧客への分別啓発 1件/月	顧客への分別啓発 1件/月	100%
グリーン購入	推進する	推進する	100%
化学物質の適切な管理	適切な管理状況確認 1回/週	適切な管理状況確認 1回/週	100%
安全管理	実施毎月1回	実施毎月1回	100%
地域貢献(地域清掃等)	清掃2回/年	清掃2回/年	100%

11. 環境活動の評価と今後の活動 2023年1月1日～2023年12月31日

項目	評価と今後の活動
二酸化炭素排出量	(評価) 乾燥汚泥の運搬作業がなくなったのと常用する作業車の頻度が少なくなったので軽油の使用量が極端に下がって排出量が下がった。 (今後の活動) 電気使用量、燃料使用量と同様に目標設定を見直す必要がある。今年同様に排出量が削減できるように意識を持っていきたい。
電気使用量	(評価) 電気使用量は最大の要因としては、ほとんど残業してないのがかなり大きいと思われる。有価物集荷場のプレハブの節電と事務所のエアコン使用効率で電気量使用が抑えられたのではないかと思う。 (今後の活動) 来年は現状を維持し目標設定を少なくして更に従業員の中で意識向上を持ちたい。
ガソリン使用量	(評価) コロナ禍ではあったが人の動きが活発になったので営業車の稼働が増えた部分と営繕・清掃部門のガソリン車稼働が増えたので使用量が増えた。 (今後の活動) 無駄な動きも少なからずあったので効率を考えて近郊の出先を考えて動く必要がある。社会情勢を見ながら使用率削減の設定よりもかけ離れてきた場合は見直す必要がある。
軽油使用量	(評価) 乾燥汚泥の運搬作業がなくなったのと常用する作業車の頻度が少なくなったので軽油の使用量が減ったが極端な数量なので、確認する必要がある。 (今後の活動) 来年は使用量の目標設定を見直す。
有価物リサイクル	(評価) 昨年に引き続き有価物のリサイクル化はコロナ禍でホームページやSNS等で自社が今までよりも知れ渡り、銅線の持ち込みが秋口に増えた。作業段取りも良くなってきているのも増加の要因だと思う。 (今後の活動) 社会情勢による景気の変動で左右される活動ではあるが、分別できるものは出来るだけ分別していきたい。
水使用量	(評価) 委託収集も安定してきて、洗車頻度も少なくなったのが使用量に減少になったと思う。 (今後の活動) 来年は今年を基準にした目標設定をし、使用量減少に繋がるように無理・無駄な使用をなくしたい。
サービスの環境配慮	(評価) 昨年同様に、朝礼で社員の発言が具体的になってきて意識は更に高まっている。社長もそれに加わって頂き、その場で改善策を討論する場面もあるので、引き続きレベルアップはしていると思う。 (今後の活動) 原価意識を持ちつつ、作業に付加価値を追加できるようなアイデアやサービスを提供できるように社員のレベルアップが不可欠。
グリーン購入	(評価) グリーン商品はトイレトペーパー、コピー用紙、ビニール袋、制服等を購入。 (今後の活動) 引き続き購入の際はグリーン商品を確認しながら、無駄な使用を控えるように心掛けたい。
化学物質の適切な管理	(評価) 昨年同様、県内小中学校のトイレ清掃（尿石除去）業務が増え、尿石除去用洗浄薬（塩酸）の購入が増え始めた。苛性ソーダはお客様の営業再開により、グリストラップ清掃他厨房清掃に使う為使用量が増えた。あとは保管数量記録表の記入漏れがあった。 (今後の活動) 保管数量記録表の管理の徹底をおこなう。管理場所については、施錠、消火器の設置、放水消火の禁止等指示した。
安全管理	(評価) 車輛台数が増えたので、車両置き場、有価物集荷場での事故防止活動をおこなった。敷地の囲いが経年劣化していたので社長の指示のもと点検をしながら空き時間を利用して補強及び張替をおこなった。台風予防で倉庫屋根材は飛散ないようにネット補強をした。 (今後の活動) 来年度も事故がないように安全管理を徹底していく。
地域貢献（地域清掃）	(評価) 暇な時期に自社車両置き場、有価物集荷場の廻りの除草及び清掃を5月と10月に実施した。地域貢献と言う意味で、有価物の買い取りのお客様に飲料水や焼き芋の提供サービスをおこなった。 (今後の活動) 環境経営方針の継続及び地域貢献は年2回。その他の取組は継続していく。新たな貢献はないかも引き続き話し合っていきたい。

12. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

遵守評価は環境法規制登録表で実施しています。

対象法規類

1. 廃棄物処理法
2. フロン排出抑制法
3. 自動車リサイクル法
4. 家電リサイクル法
5. PCリサイクル法
6. 消防法
7. 労働安全衛生法
8. 毒物及び劇物取締法
9. 水銀に関する水俣条約
10. 水質汚濁防止法

遵守評価の結果、環境関連法規への違反はありません。

なお、訴訟や関係当局からの指摘や行政指導は、過去3年間ありません。

13. 代表者による全体評価と見直し・指示

一年を通してコロナ禍で従業員の健康状態、体調管理、社会情勢を確認しながら業務の予定を組むのは難しい部分ではあったが、環境活動は改善の余地がある。目標達成を出来ていない原因ははっきりしているので、次年度は従業員レベルアップを重点的に社会情勢を見据えながら指示をしていく。

見直し結果

項目	見直し結果
環境経営方針	継続していく。
環境経営目標、環境活動	四半期毎に見直しを行いながら継続していく。
実施体制	その都度、役割・能力に応じて変更し継続していく。
その他の仕組み、取組	必要な限り改善、継続していく。

2024年1月11日

代表取締役 松見真一

改善活動の紹介・安全講習

3月 場内での事故防止の安全講習



8月 倉庫作業場の屋根を増設



10月 パッカー車点検時の安全講習



11月 駐車場資材置場を移設

